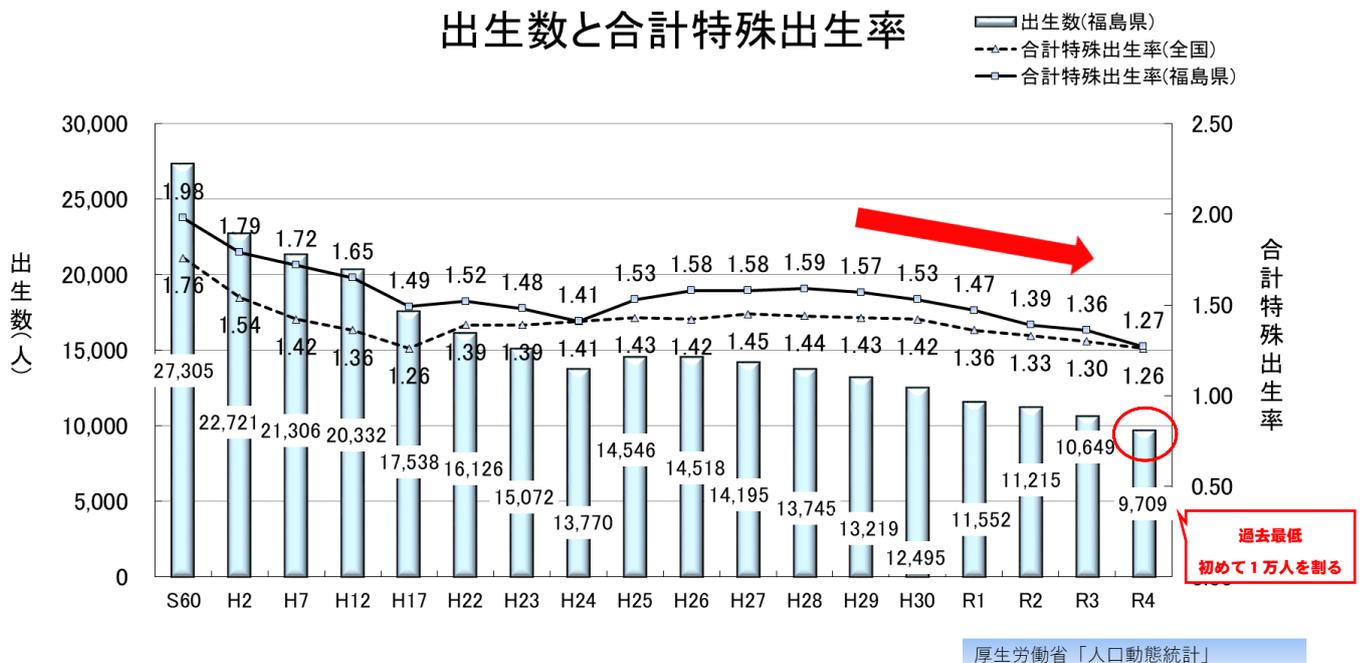


福島県の少子化の状況について

1 出生数と合計特殊出生率の現状



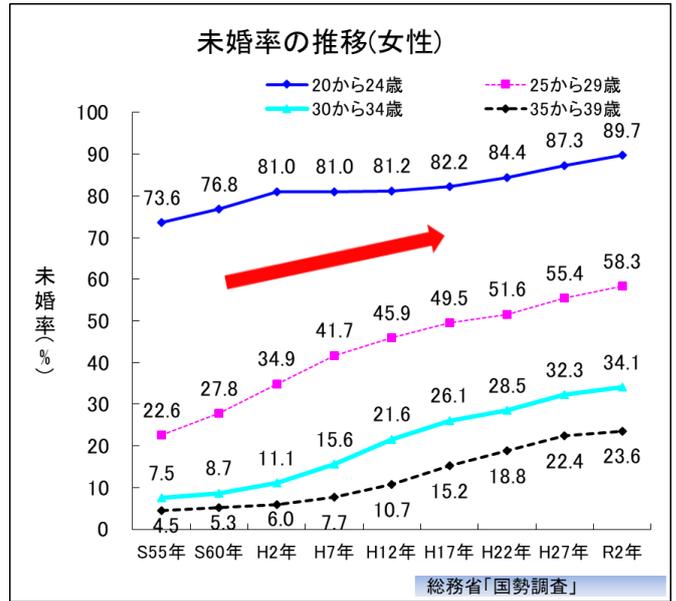
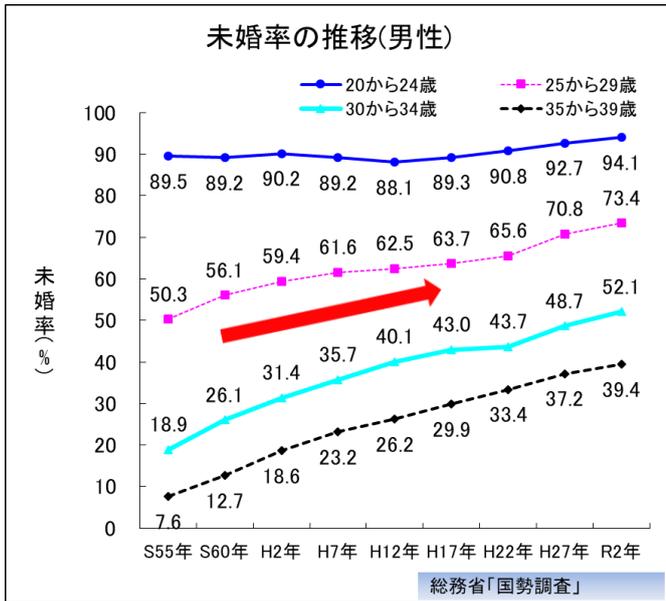
- 本県の合計特殊出生率は、これまで全国平均を上回って推移してきたが、令和4年は前年から△0.09 と大きく減少して 1.27 と、ほぼ全国並(1.26)となった。これは、東日本大震災の影響を強く受けた平成 23 から 24 年にかけての減少幅が△0.07 であることを踏まえれば、大変厳しい状況である(令和5年概数は 6 月上旬、確定数は 9 月頃に公表予定)。
- 出生数は令和4年で 9,709 人と初めて1万人を割り込み過去最少となった(令和5年速報値は 9,499 人。なお速報は外国人を含むため、日本人のみの概数・確定数はこれを下回る見込み)。平成 12 年と比較した減少幅は、全国が約 33%減(H12:1,190,547 人→R4:770,759 人)であるのに比べ、本県は約 52%減と半減しており、全国よりも急速に少子化が進行しているといえる。なお、本県は若い世代、特に女性の人口流出が深刻であり、出生数の減少に大きく影響している
- ※ 2023年次における本県の 20 代女性の転入超過数は△2,332 人で全国ワースト 40 位(「住民基本台帳人口移動報告 2023 年(令和5年)結果」より)。
- 令和6年4月1日現在における本県のこどもの数は(15 歳未満人口)は 186,508 人で、前年(令和 5 年4月1日現在)より 6,114 人減少、0 歳と 1 歳の人口ははじめて 10,000 人を割った。

★合計特殊出生率とは？

「15～49 歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの」で、一人の女性(未婚者含む)が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に子どもを出産した場合、合計で何人の子どもを出産することになるかを推計したもの。日本においては概ね 2.07 を下回ると人口が減少するといわれている。

2 未婚化の状況

※グラフは福島県の数値。



未婚率推移(福島県と全国の比較)

		20～24歳		25～29歳		30～34歳		35～39歳	
		昭和55年	令和2年	昭和55年	令和2年	昭和55年	令和2年	昭和55年	令和2年
男性	福島県	89.5	94.1	50.3	73.4	18.9	52.1	7.6	39.4
	全国	91.5	95.7	55.1	76.4	21.5	51.8	8.5	38.5
女性	福島県	73.6	89.7	22.6	58.3	7.5	34.1	4.5	23.6
	全国	77.7	93.0	24.0	65.8	9.1	38.5	5.5	26.2

- 未婚率(一度も結婚したことの無い人の割合)は全国・本県ともに上昇傾向にあり、特に近年は顕著に上昇している。また本県と全国を比較すると、男女共に20代は全国平均よりも低いものの、男性は30代以降で全国を上回っている。

3 少子化への対応

- 令和元年度に実施した「少子化・子育てに関する県民意識調査」では、未婚者の約7割は結婚を望んでおり、また理想とするこどもの数は平均 2.54 人であるのに対し、予定している人数は平均 2.23 人とギャップが生じている。

➡ **出会い・結婚の希望をかなえ、安心して妊娠・出産・子育てができる環境づくりを推進。**

- 一方で、今後人口が増加に転じる(出生数・率が大幅に増える)ことは困難と予想される。

➡ **こどもひとりひとり、家庭ひとつひとつが、幸福を実感できる環境づくりが重要。**

☆これから御審議いただく新計画において、少子化への対策・対応をより一層推進していきます。